

## 2040プロジェクト ステップ3 ー解説編ー

(本編で説明しきれなかった内容をマニュアルの形で収録しました、本編とあわせてお読みください)

山梨建築設計4団体2040プロジェクト実行委員会



## 2040プロジェクトステップ3 ー解説編ー

(本編で説明しきれなかった内容をマニュアルの形で収録しました)

### 1) 甲府新都市軸「Mid-Rio (ミドリオ)」

Mid-Rio(ミドリオ)は中央、中間を意味する「ミドル」とスペイン語で川を意味する「リオ」を合わせた造語で、甲府盆地の中央部を縦断する緑に囲まれた河川公園という意味があります。

2040プロジェクトでは、「ステップ1」作成時から荒川河川敷を整備した河川公園の提案を行ってきました。

発想のヒントになったのは、甲斐市の信玄堤公園とコアグループでスペインのマドリッドに視察に行った河川公園「マドリッドリオ」です。

甲府市が開府500年を迎える現在、武田信玄が築いた信玄堤が現在でも防災と美しい信玄堤公園を我々に与えてくれている事を考えると、今を生きる私達が未来のために何が投資できるかが問われています。

マドリッドリオは、当時の市長がマドリッド市の周りのセンレス川約10キロにわたってR30と言う高速道路を地中化して作った河川公園で、5年間という短期間で整備されました。経済状況が良くないスペインにおいて費用が掛かりすぎたという批判もあるようですが、私達が視察にいった土曜日は市民であふれていて、市民に愛されている様子がとても印象的でした。

これからの地域活性化は、大型商業施設を整備する事でなく、少し時間はかかるかも知れませんが景観を含む環境整備を行う事によって地域の地力(価値)を高める努力こそが未来のために必要だと考えます。

甲府盆地全体の長期的で具体的なビジョンを掲げ、これに掛かるコストや時間を地域の人々で論議する事。それは東京一極集中や地方の衰退、山梨においては、リニア中央新幹線の開業年が具体的に示された現在だからこそ、取り組まなければならない課題だと思います。

私達は、『地域の価値』を高めることに力点を置いています。地域の抱える問題点を生活する人の立場で、地元の間人が一生懸命考えて提案しています。

## 2) ワークライフバランス街区

リニア中央新幹線が開通すると、甲府市南部は新しいライフスタイルや内閣府が提唱するワークライフバランスを実現する住宅地としては最適なエリアになります。

データ比較で示したように、土地価格、可処分所得以外にも可処分時間など換金化されない生活指数などを勘案した時、Mid-Rio（ミドリオ）等の都市公園の整備は首都圏からの移住者も見込める高いポテンシャルを持ち、提案の様な木造低層住宅街区は本当の意味での「田園都市」を形成することができるアドバンテージに富んだ地域です。

これを林野庁が薦めるCLTなど地域の山林資源を生かした新しい技術で建設することは、これからの地球温暖化対策や持続可能な社会の実現に対する重要な試みです。国の補助事業や民間デベロッパーなど、官民一体の先進的な開発が重要です。

定住人口増加を目指すには首都圏や県外からの移住者にとっても魅力的な景観街区を形成することが重要です。半官半民で国の補助制度なども利用しながら整備することが重要です。

CLTの活用に関しては北欧などの先進事例なども参考にし、中層建築に対しての利用も検討課題ですが、独自のユニット化住宅などの研究開発に取り組むことが必要です。

首都圏に近い特性を生かしたCLT住宅の開発により、住宅そのものだけではなく新しいライフスタイルの提案に繋がるワークライフバランス街区としてより良い住宅環境の形成ができた時、甲府盆地は生活する人々に新たなブランドイメージ（鎌倉のような）を確立することができます。

### 3) アクティブシニアタウン

リニア中央新幹線が開通する頃は団塊の世代が後期高齢者になり老人問題がピークに達します。

老人介護は、在宅か入所だけでないそれぞれの生き方に沿った生活提案が必要になります。

ボランティア活動や社会の中で何らかの役割を担うことのできる自立した老人達のための戸建て住宅やシェアハウス。認知症老人だけではない新しい形態の介護サービス付きのグループホーム。ボランティアやNPO 法人にも開かれた地域コミュニティセンター。医大や看護科の学生の家賃補助アパート（コミュニティに対しての一定のボランティア活動を行う事による家賃補助や奨学金制度）等の複合的な機能の新しいコミュニティ街区「アクティブシニアタウン」を目指します。

全国でもこれに似た試みは幾つか始まっています。山梨は、豊かな自然と住みやすい環境にありながら首都圏に近いという利点があります。首都圏の福祉施設入居待老人の受け入れ先にもなり得ます。（提携をした首都圏の自治体予算で施設建設費や運営費をまかなえる制度もあります）。

老人介護のもう一つの問題は介護者の不足です。豊かな自然と全国一の空き家率の空き家を活用した介護従事者の積極的な移住促進を同時に進める事により、山梨は終の棲家の新しいライフサイクルのモデルケースをつくることができます。

#### 4) 防災危機管理センター

日本の都市構造が東京一極集中によって大きく歪んできているのは、何十年も前から指摘されてきたことですが、後期高齢者2025年問題や、若者が集まっているのに東京の出生率が全国最下位であることなどを考えると、本当の意味での危機は、これから10年ほどの間により深刻化するものと考えられます。これらを東京だけで解決することは不可能です。交通網の整備やインターネット情報網が普及した今、周辺地域が首都機能をその地域の特性にあった分野で受け持つことが必要で、そのための受け皿づくりを山梨県も積極的に行うべきです。

地方の過疎化が問題とされていますが、東京の肥大化の問題に対処する上でも山梨の特性を見据えた上で、首都機能の一部を担うべきです。

私達の提案する防災危機管理センターだけでなく、山梨甲府の特性に合った国の施設を誘致する努力をすべきです。

#### 5) フィユモンテスタジアム

ヴァンフォーレ甲府は、大きなメインスポンサーを持たない地域に密着したサッカーチームです。

山梨のアイデンティティの象徴としてチームを盛り立てていくのと同時に、観客がより楽しめるスタジアムに知恵を絞るべきです。ヨーロッパの中小都市が自前のクラブチームを持ち、その地域の人々達に愛されながら、その人々の暮らしの中に定着し、生活を豊かにする事に役立っていることを考えると、より地域の人々が身近で楽しめるスタジアムにするべく知恵を絞るべきです。

例えば、サッカー観戦をしながらスマホを見て、その試合の特別な情報の提供を受けられることができる「IT観戦システム」の導入によりシュートシーンをゴールキーパーの視点で見れたり、特定の選手のプレーを選んで観戦できたり、ハード面だけでなくソフトも充実したスタジアムにすることで、スタジアムに行かなければ受けられない特別なサービスを提供することができると、本当に県民に愛されるスタジアムになるはずです。

また、山梨で活躍してきたスポーツ関係者に関する資料館などを併設して、スポーツ文化を根付かせる努力も必要です。

## 6) ノマドメッセ

リニア中央新幹線、富士山、果樹王国等、リニア駅周辺は国際見本市などの会場設置場所としてのポテンシャルを持つエリアです。ただし稼働率の悪いメッセ会場（現在のアイメッセの少なくとも数倍の面積が必要）を常設建築物で造ることは得策ではありません。

普段は公園として使用する場所に、コンテナやテントで移動可能なノマド（遊牧民）メッセを計画しましょう。コンテナの日常的な保管場所をリニア陸橋の下に確保する等、仮設の運用をシステム化することにより、山梨県の別な地域でも国際的なメッセ開催が可能になります。公園や芝生を取り込んだ環境対応型の新しいメッセ会場に世界的イベントを誘致しましょう。またノマド（遊牧民）メッセのシステムを富士北麓、ハケ岳南麓などでも共有することが可能です。

10年ほど前に建築家の坂茂がお台場で世界的に有名な写真家のためのノマドミュージアムを作りました。このミュージアムはそのまま日本各地を巡回し、ヨーロッパでも開催されました。このミュージアムは、コンテナと坂茂得意のダンボールパイプによる移動可能な美術館でしたが、鉄骨フレーム、仮設足場用パイプ、テント、コンテナの組み合わせでより用途に適したメッセ会場を構成することができます。時代のニーズの変化に対応できる仮設的な思考で造ることも大切です。

## 7) レディスコア

少子高齢化時代、専業主婦が経済的に許されない時代、子育てにより良い環境をどの様に整備してママさん達の切実なニーズに応えることができるかが、その地域の課題になります。

遊休公用地を活用して子育てに必要と思われる施設を集中して誘致し、多世代の家族や地域コミュニティが今まで担ってきた子育ての機能やメンタル面でのフォローまでできるような先進的な施設を整備すべきです。

象徴的に甲府市内の2か所ほど設置するこれらの施設には、ママさんだけでなく育メンパパに対しても子育てに関する

必要なものがここだけで揃い、情報やアドバイスも受けられる施設を整備することができればと思います。公設民営でテナントを募集し、行政の関係窓口も設置するこの施設は、甲府盆地を世界一美しい盆地で世界一住みやすい盆地にするためには避けて通れない施設で、山梨甲府が子育てにより良い環境を目指して本気で取り組む第一歩がここから始まります。

## 8) フードガレージ「甲府市場」

JR 甲府駅とリニア中央新幹線駅のちょうど真ん中には甲府地方卸売市場があり、甲府バイパスと私達が提唱する Mid-Rio (ミドリオ) のアクセス道路との交差点のもあたる交通の要所です。また、将来的にリニア駅方向に開発が進むとすると「甲府市場」あたりが甲府盆地の重心位置になってきます。この立地を生かして市場機能を拡大充実させた山梨の食に関する総合的なマルシェ「フードガレージ」＝「山梨の胃袋」を作り、県民はもとよりインバウンドを含む観光客も誘致できる施設にすべきです。山梨の食に関する全てがソフト面を含めて全てここにある。食材による地域おこしの総合プロデュースができる機能を関係団体で整備することも必要です。

## 9) 甲府アートアベニュー

県立美術館、文学館及び貢川周辺エリアはアートに親しむ事ができる工房やギャラリー、ミュージアムが集積しています。それらの機能をより充実させ、貢川沿いの桜並木の景観を生かしながら Mid-Rio (ミドリオ) に繋がる県民文化ホールまでみんなが楽しめるアートに触れられるエリアに育てましょう。

現在活動している NPO などとも連動して一日楽しめるエリアにしましょう。それには県立美術館、文学館、県民文化ホール、地元ギャラリー、地元芸術家が協力・連携して、県民や観光客も楽しめる芸術・文化の拠点としてこのエリアを整備していくことと、定期的な芸術活動 (ビエンナーレ・トリエンナーレ) 等のソフト面での企画が必要です。

## 10) ストックイノベーション

甲府市の中心部にあるビルに対しての再活用はオーナーだけでなく、地元商店街、行政も含めた大きな課題です。大型ショッピングセンターが郊外に次々と建設され、またその増床が具体化されてきている現在、ストック(既存建築物)を負の遺産にさせないために知恵を絞らなければなりません。中心街の特性を生かした活用法、私達はステップ2で旧市街大人の楽しめる街という提案をいたしました。この問題は甲府市中心街にとっては早急に取り組まなければならない問題です。

中心街のストック利活用は郊外のショッピングセンターではない切り口や文化的な視点によるコンテンツ提案、新しいニーズに対応する知恵と努力が必要とされています。

甲府市では中心街のリノベーションまちづくりとして具体的な動きがもう始まっています。

## 11) リニア駅舎

リニア駅舎に関しては様々な事が取りざたされています。JR 東海は最小限の施設とし、券売も自動販売機によるという素案がでています。地元からは展望台設置で富士山が見えるようにとか、大型ショッピングモールの併設等々の要求が出ています。私達は、駅舎の機能はシンプルであっても山梨の特性を生かしたグリーンアトリウムを提案いたします。品川、相模原、名古屋等リニア新駅が地下化する中で、地上駅として整備されるリニア甲府駅の特質を生かし、山梨の果樹や緑化による駅舎は、この駅を訪れる観光客や地元の人々に驚きと安らぎを与えるものになります。これにバイリンガルのコンシェルジュが設置できれば、大きなアトリウムを持つ世界の有名な駅舎と同様、外部に繋がるグリーンアトリウムと共に一度は訪れてみたい駅舎になります。また、ビジネスや通勤で利用する人々にとっては安らぎを与える山梨の新しい原風景になります。

## 1 2) スーパースマートインター甲府

リニア駅から山梨やその周辺地域に対して、中央道や環状道路を通じてアクセスできる利点を生かし、富士山へのアクセスも含めたスーパースマートインターとしての機能を持たせましょう。リニア始発駅である品川駅のその先にある羽田空港は、成田空港を超える規模の日本のハブ空港になり、羽田から1時間以内でアクセスできる甲府は、世界的な企業も含めた企業誘致の候補地として大きなアドバンテージを持つこととなります。中央道と環状道路に隣接するリニア新駅の立地を生かしてスマートインターと直結したリニア駅とすることは、長野、静岡など広範囲にアクセスできる利便性をより生かすことができます。リニア新駅をスーパーハブ化することにより、新たな甲府盆地の役割も見えてくる可能性があります。

ハザードマップで明らかなようにリニア駅周辺は5mを越える浸水地域です。Mid-Rio（ミドリオ）の提案のように河川の強靱化は不可欠ですが、中央道と同レベルのスマートインターは防災面でも有効です。

## 1 3) 甲府グリーンリノベーション

オリオンイーストの緑化改修により、オリオンイーストのテナント入居者も増え、色々な方からも雰囲気のある路地として評価を得ています。建物緑化や駐車場緑化を含め落ち着いた大人の楽しめる甲府市中心街を作り出すにはグリーンリノベーションは有効なツールです。ステップ2で提案した幾つかのプロジェクトはすぐには実現しない提案もありますが、幾つかの具体的なプロジェクトを含め、グリーンリノベーションに関しては息長く活動していきたいと思っています。報告書の発表とそれに対するアフターフォローの具体化として、中心街のグリーンリノベーションは続けていきます。

## 公平に地域を考える為に 山梨の問題点を聞く

ステップ3でここまで提案してきたことは、山梨の良い特性を生かして伸ばしていこうというものです。では山梨の問題点は何か、何を改善しなければならないのか、ここに集めた意見は私達が活動を行っている過程で見聞きした代表的な意見です。

これらの意見のいくつかに対してはステップ3でも対応していますが、自分たちの地域の弱点を自覚しながら、その改善に努める対策を講じることも、地域のまちづくりには必要な事だと考えております。

私達は、初めに表明したように、ステップ3を含めて今までの提案している内容は実現するために長い期間と多くの資金を必要とするものを含むことから、時代や実情に合わせて変更改善を行うことは当然だと考えています。これからの提案も含め山梨に関わる人々の意見を聞きながら提案に反映させていきたいと思っています。

## 地域に誇りを持つためのバックデータ

山梨甲府を、私達は人々が定住し普通の生活をしていく場所としてはポテンシャルが高い場所だと考えています。そのことをデータからも導き出したいと思っています。

まずは「タイムマップ」で東京駅からの移動時間とその都市の路線価土地価格と家賃などの比較表です。リニア新幹線が開通することにより大きく環境が変わるポイントの一つです。経済的には首都圏より関西圏との結びつきに対する効果の方が大きいという意見もあるようですが、定住促進、企業誘致を考えるとこのデータは重要だと思われます。

可処分所得は以前から使われている指標ですが、可処分時間も、長い人生の中で自分が自由に使える時間という指標も大きな意味を持つと考えます。便利ではありますが、全ての行為が換金換算されてしまう大都市の生活に対して、山梨への移住者が、その季節には果物や野菜が近所からいただけることに一番驚いていたこと。週末に特別なリゾート地に出かけなくても、子供たちと川や山で遊ぶことが出来る事。など、換金されないメリットが正当に評価されたときに、都道府県

の格付けランキング総合第7位や、住みたい街ランキング首都圏第1位の日野市との比較でも甲府市が子育てに断然優位なことなどを考えると、山梨のキャッチコピーを定住に重点を置き「週末は山梨にいます」から「週末は東京にも出かけます」に変えるべきだと考えています。

## プロローグ

2040プロジェクトの活動をはじめた5年前、2040（ニイマルヨンマル）とは2040年に甲府の人口20万人を40万人にしようといった意味でプロジェクト名にしました。バブリーな単に人口増を目指す建築屋的発想からではなく、地道な環境整備による山梨のランドデザインを提案し、それを実現するように地元の私達が汗をかく事を継続的に行うという主旨でプロジェクトを立ち上げました。

その契機になったのは、リニア中央新幹線の計画が具体化したことによります。しかし何気なく命名した2040が、リニア中央新幹線大阪までの開通前倒しの見通しで、2040年という年が山梨にとって大きな意味を持つようになってきました。これから24年間、山梨県が、甲府市が、各市町村が、そして住民の私達が何を考えどう行動するかが問われています。

# Memo

A series of horizontal dashed lines for writing.

# Memo

A series of horizontal dashed lines for writing a memo.

## 2040 プロジェクト・ステップ3 ー 解説編 ー

---

平成 28 年 9 月

編集・発行 山梨建築設計 4 団体 2040 プロジェクト実行委員会  
山梨県建築設計協会 山梨県建築士事務所協会  
山梨県建築士会 日本建築学会山梨支所

問い合わせ先 一般社団法人山梨県建築設計協会  
〒400-0031 山梨県甲府市丸の内 1-14-19  
TEL 055-232-5770 FAX 055-232-5959  
E-mail yarc@peach.ocn.ne.jp  
URL <http://www.yksekkei.org/>

